

山村淳一先生の講演〈感想・意見〉

子どもたちを取り巻く状況が、より複雑で、見えにくくなってきている現在、学校だけで対応できることは限られていると思います。医療機関などの専門機関や行政機関など、より多くのつながりの中で、子どもたちへの多方面からの支援が必要なのだと、改めて思いました。ありがとうございました。

「解離」という状態について詳しく知ることができました。確かに指導中、自分に都合が悪くなると「あくび」をし始める子、視線を逸らし「自分には関係ないです」という態度を見せる子に出会ったことがあります。「解離」は自分自身を守るためにしていることも分かりました。「解離」が見られる子に SST（ソーシャルスキルトレーニング）ををするときに、「あなたとは関係ない人のことだよ」と安心させてから、架空の登場人物について考えることでソーシャルスキルを身に付けさせていこうと思いました。ありがとうございました。

統計データや事例など具体的なエビデンスに基づく言説だったので、大変興味深く拝聴しました。虐待と発達障害の違いの見立ての方法が具体的で大変分かりやすかったです。解離性健忘の子供たちのあくびの姿は、臨床場面でも遭遇したことがあったので、納得しました。

虐待と発達障害の関係について第一線で活躍されている方の講演が聞いてよかったです。天竜病院に入院するまでいなくても、愛着障害、虐待の視点を持ちながら通級指導に当たっていこうと思います。虐待やネグレクトがあったとしても、「信頼できる大人の存在が大切」と伺いました。そういう存在になれるようになりたいと思います。そして、通級の子たちが納税者となれるよう、日々がんばりたいと思います。本日はありがとうございました。

虐待の連鎖を食い止めるためにできることをしていきたい。

どんなことも、早期対応が大事。問題が複雑、課題がいくつもになってしまう。そうなるまえに、介入したい。そうならないで子育てできるよう社会全体で子どもの支援者を支えられると良い。

浜松の医療と教育と福祉の体制、通院、入院のシステムが流石浜松と思った。他市も学びたいあり方である。

以前から、発達障害と情緒障害の関係について疑問に思っていたところがありました。今日の講演をお聞きして、両者は密接な関係があり、さらには虐待が大きくかかわってきていることが理解できました。今まで関わってきた子供たちを思い浮かべながら聴講させていただきましたが、これからも子供たちの状況把握を行う時に、今日のお話をぜひ参考にしていきたいと思えます。ありがとうございました。

貴重なご講演の機会をありがとうございました。反抗挑戦性障害の段階での対応が重要であるという部分がとても切実に響きました。中学校通級には直接繋がらないケースの方が、学校現場には多いかもしれません。（保護者や本人の同意が得られない等で）しかし、素行障害まで発展させないような関わりが、今の学校現場には求められているのだということがわかりました。通級ですべてをカバーすることは難しいですが、関わった生徒さんたちが少しでも社会に適応でき、虐待の連鎖に巻き込まれないような対人関係を築けるように、支援していきたいと思えました。今回のお話は、すべての教職員が知っていて良い内容だと思えました。

大変分かりやすく、濃い内容のご講演、ありがとうございました。

診断名の変化やその経過、最新 DSM5 のお話は、保護者から得る診断名や情報を、支援に活かしたり、医療と連携をとっていったりするのための、基礎知識となります。

また、適応障害のお話も、「何に適応していないのが大切で、何を支援していくのか（わたしたちでは治療はできないので）」と、改めて、障害との向き合い方や環境（人的環境も物理的環境も）を、考えていかなければと思いました。

虐待やトラウマの問題は、学校現場には重く難しい問題ですが、まずは目の前の一人一人に寄り添って、共感的支援を続けられるよう、今日紹介していただいた書籍も含め研修を重ねていきたいと思えました。ありがとうございました。

虐待も第4の発達障害にあたるというのは初めて知りました。大変勉強になりました。ありがとうございました。

とても盛りだくさんで内容のあるお話をありがとうございました。また、山村先生のお話を対面でじかに伺いする機会があればいいなと思いました。

- ①子ども理解のために背景を知る必要があり、具体例でたくさんの説明があったため、改めて子どもを知る大切さを知った。
- ②ADHDと虐待の症状が区別されていて頭の中が整理された。
- ③社会適応できるように支援していくことが通級の役割だと思った。そのために環境を整えていく事の大事さも改めて感じた。

医学の視点から発達障害についてお話を聞くことができ勉強になりました。ASDの評価と判断についても参考になる本を紹介していただき、児童の観察をしながら活用していけたらと思います。最近、今頃になってですが、教育・医学・心理学など、様々な見方が必要だと深く感じてきており、関連した見方が大切だと思いました。1回では全てを理解することが難しいので、また、お話を聞くことができたらうれしいです。

虐待児と健常児との脳の発達の違いがたいへんよくわかりました。情動を司る分野と理性の分野の対比の割合がこうも違うのかと驚きました。しかし、知れば知るほど納得しました。中学生になって反抗挑戦性障害が出ている子も実際にいます。私たちも、卒業後の事が心配になっています。アタッチメントが形成不全、安心を与えてくれる大人との交流の欠如等々、原因がいくつも考えられます。学校側が、一人一人に時間を掛けて接し、話を聞き、信頼関係や安心感を与えていくことが必要なことは理解できますが、実行し継続していくことは大変難しい現状があります。できるだけ年齢が小さいうちに、保護者との関係を作り、共に子どもをみて育てていくことが何よりだと感じています。

成人男性の通院について質問した者です。静岡医療センターをお母様に紹介しました。ありがとうございました。

本日はありがとうございました。短い時間ですが、とても聞き応えのある内容でした。特に、自閉症のことについては、本校の先生方にも周知していきたいことだと思います。「風邪をひいて咳をしているのと同じ」や、「車を水に浸けたことと同じ」など、わかりやすい例えが多く、理解が深まりました。

ASDの話聞いて、誰でも発達凸凹があるということがわかりました。

児童虐待の話では、脳の器質的な変化を起こすことについて、衝撃を受けました。涙が出ました。

虐待の話聞いて、今度通級する幼児のことを思い浮かべました。同じ境遇になっていないことを望みます。また、虐待は、多重人格や忘却性を引き起こすほど、つらいものだということを改めて知り、胸を締め付けられるようでした。

医学的な障害分類を知ることができ、勉強になりました。こちらでは発達に躓きのある幼児の特性を把握し、保護者や関係機関と連携を取りながらお子さんとかわかっています。お子さんが就学するときには小学校と情報共有し、その子の特性をお伝えしていますが、情報共有が上手にできるケースとうまくいかないケースがあります。できればお子さんが今後も周囲の方に特性を理解してもらえよう、支援が長く続いていけるといいなと思っています。

今回の講演を通して、県内に天竜病院のような施設があることを知ることができ、心強く思います。教育だけではなく医療、福祉、就労と様々な機関が連携していくことで、子どもも保護者もサポートできる機会が広がると感じました。事例で挙げたお子さんの指導（療育？）について具体的なお話を伺ってみたいかったです。

発達障害の新たな分類は初めて知りました。子ども虐待は第四の発達障害というお話はなるほどと思いました。虐待は世代間で連鎖するという話を聞いたことがあります。いまこの代で連鎖を断ち切れるように、学校現場の職員として関係機関と連携をとっていきたいと思いました。

児童青年期精神医学会認定医が415名のみということや、養護施設、児童相談所の職員が足りないというお話し

から、少子化がますます加速しそうだと思いました。教員不足も叫ばれる中、こどもの教育やこどもの医療にもっと予算を当ててほしいです。学校にいる子の中で、だらけている、サボっているように見える子の中に虐待を受けている子がいるかもしれないという思いを持っていたいです。とても分かりやすいお話をありがとうございました。

山村先生の講演を聞き、発達障害についての理解を深めることができました。また、第四の発達障害(子供虐待)の話の聞き、愛着障害、解離、反社会的行動など、問題が大きいと分かりました。特に、「虐待体験は脳を変える」ということが、大変こわいと思いました。天竜病院が、最後の砦として、子供達の心を支えてくださっていることに頭が下がる思いです。教育現場でできることを考えて、実践していきたいと思います。

乖離したときのあくびなどの表れを知ることができ、とても参考になりました。

DSM5を示してくださったので、日々接するお子さん達を理解したり、受診結果を読み解いたりする上での助けとしていきたいと思います。

発達障害と愛着障害の関係性や違いについて、とても勉強になりました。児童への指導だけでなく、保護者への啓蒙がいかに重要なのかを再認識しました。

病院とすぐに連携のとれる家庭ばかりではないので、学校現場にいる私たちが、問題や課題を抱える子どもたちやその子たちに対する手立てをなるべく早く見つけ出し、早期に対応してあげられるように、通級担当者としても学校の特別支援教育コーディネーターとしても力をつけていきたいと感じました。ありがとうございました。

診断について、発達障害と情緒障害、虐待、トラウマ、以上のお話を医師から伺えて良かったです。

医療的な面からの、発達障害の特徴を学ぶ事ができました。私達は、今年度から通級指導教室の担当になったため、発達障害について言葉は知っているが詳しい特性は知らない状況でした。山村先生の講義から診断が出る基準などを教えていただき勉強になりました。また、「こどもの虐待」が発達障害に含まれていくことを知り、驚きました。ADHDと似ている愛着障害についても、日々の子どもたちの様子をよく観察してその子にあった関わりをしていきたいと思います。1つだけの症状ではなく、多くの事が重なって今の子どもの実状があることを頭に入れ関わっていきます。ありがとうございました。

DSM-5を丁寧に解説していただき自閉症に対する理解が深まりました。

発達障害の苦しみ、虐待、目を背けられない現実を知り悲しむだけではいけないと思いました。

聴いているだけでも苦しい子どもたちの側で治療、介入に尽力し育ちを支える山村先生の存在は、お子さん親御さんにとっても大切な存在だと感じました。

幼児言語教室に通って下さる、お子さん親御さんとの関わりを大切に細かな変化にも気を配っていきたいと思えます。

虐待が原因で脳が萎縮してしまうことは聞いたことがありましたが、脳の図でわかりやすく説明があり、納得しました。第4の発達障害と言われる愛着障害は、適切な関わり方をすれば防げることだと思うので、子育てをする親が健全であるべきだと思います。親自身が幸せでないといけないので、皆が幸福を感じる社会にならなければ、愛着障害で苦しむ子供は減らないと思いました。天竜病院のような病院が、増えたらいいと思います。また、機会があったら事例の話を知りたいです。ありがとうございました。

子どもの持つ障害が複雑化し、また件数が増加している現状を説明していただき、対応する大人の専門性や人員確保の必要性を感じました。また、虐待の事例は衝撃的で、安易な対応はできないなと感じました。障害の背景と現状をしっかりと把握して対応に当たりたいと思いました。

発達障害や児童虐待について実際にかかわっていらっしゃる先生から、貴重なお話を聴くことができ、大変勉強になりました。発達障害の子どもたちや愛着障害をもった子どもたちが、本校にもたくさんいます。その子どもたちの支えや力に少しでもなれるよう、自分ができることから実践していきたいと思いました。本当にありがと

うございました。

虐待が脳にこんなにも影響するのかと驚きました。虐待と聞くと、遠い世界のことのように感じますが、自校にも近い事例はあると思います。アンテナを高く張って、情報を掴むようにして、関係機関と連携しながら適切な相談機関につなげることが私たちに求められていると思いました。

発達障害を抱える子供とともに、虐待等の不適切な養育により脳の発達に影響を及ぼされている子供が10%を超える割合で存在していること、それぞれの特性がある中でいろいろな不適応を起こしてしまう子供も多くなっていること、その行動には思いや背景があることなど、大変勉強になりました。医療の立場からの専門的で具体的なお話は大変貴重でした。障害の状態や対応について日々目の前の子どもを通して悩み考えていますが、医学的な見方考え方の現在の情報をいただき、改めて子供の見方、理解の仕方を見つめ直すいい機会となりました。指導している子供たちの行動の思いや背景にあるものを考えて、その子にどんなサポート、対応が必要なのかを丁寧に見ていく必要があると感じました。今後、それを考慮して、支援していきたいと思います。

大変密度の濃い講演内容で大変勉強になりました。ご紹介くださった書籍を少しずつ読み進めていきたいと思えます。ありがとうございました。

発達障害の判断基準の改定や、虐待によって生じる脳への影響や、二次障害についてなど、最新の情報を知ることができてとてもよかったです。

・県にこのようなセンターがあることは、保護者や子ども、教育現場にとって、大変ありがたいです。しかし、地域によって施設差があり、対応できる専門家の数が足りていないことは、とても残念です。

医師の山村先生から、専門的なお話を聞くことができ、大変有意義な講演会でした。児童虐待が大きな社会問題になっている現在、通級に来室する児童も家庭的な問題も絡み、対応が難しくなっている現状を知ることができました。ご紹介いただいた杉山先生の書籍も是非読んで勉強したいと思いました。

もしかしたら解離かもしれないと思った時に、適切どころへつなぐ必要性を感じました。少子化であるにもかかわらず、発達障害や被虐待児が増えているのはなんとなくそうかな、という気は教育に携わるものであれば感覚として思っているものですが、実際に数字で見ると納得させられます。子どもたちの信号をいち早くとらえられる立場にいるのは学校なので、見逃さないように研修を積んでいこうと思いました。

頼りになる専門機関があることがわかり、心強く思います。医療・福祉等関係機関のネットワークが素晴らしいと思いました。今関わっている親子への支援のヒントをたくさんいただきました。

虐待が脳に影響するというのを、具体的に示していただき、驚くとともに人間の脳のすごさも感じました。自分を守るように脳が変わっていくことがすごいと思いました。

解離など様々な症状で指導を積み重ねられないという大きな困難さがわかりました。

解離など、一見したら無気力に思われるなど、知らないままでは子どもたちを誤解して考えてしまう怖さがあるなど思いました。今日話していただいたことは、きちんと目の前のこどもの理解に活かしていきたいと思えました。

はじめの部分でASDについて詳しく話していただき、初めて発達の担当になった方にはとても役立ったと思えます。

前半の障害とその問題点などについての話をもとに、目の前の子どもの苦手さに気づいてあげられるきっかけにしたいと思えます。

愛着障害のお話では、自身の行動・気持ちをコントロールするときに、養育者のイメージが関わってくると自分は初めて知りました。愛着の大切さについてより考えることができました。

今後に向けて、児童精神科の医師の育成が急がれるので、ぜひ県内の医大にがんばってほしいです。

神経発達障害の分類や症状について、具体的に実際のあらわれを交えて話してくださり大変勉強になった。また、第4の発達障害として虐待の話も興味深かった。脳の映像やデータを用いて科学的に説明していただき、わかりやすいと同時に衝撃的だった。園で不適応が見られるこどもの保護者は、なんとかしなくちゃ！と、よくない部分にどうしても目がいってしまい負のスパイラルになっていることがある。また、保護者自身にアタッチメントの問題があり、こどもへの関わりが不適切になっているケースも少なくない。なので、大変身近な問題だと改めて感じた。虐待が脳や心に与えるダメージの大きさやその後の影響について詳しくお話いただき、大変勉強になった。

山村先生ありがとうございました。

先生のお話は、児童や保護者支援に当たる際大きな影響をもたらしました。児童の不適応行動の背景として、愛着の問題があるかもしれないという視点をもつことができました。保護者との面談で、話を聞き進めたところ、実はDVから逃げてきたという返答があったケースがありました。今後の支援、指導に生かしていきます。ありがとうございました。

幼児虐待がこんなにも児童や脳に大きな影響があることを知り、今までの自分の無知さを恥じます。あくびにも大きな意味があるかもしれないことも学びました。もっともっと学んでいかなくてはと思いました。ありがとうございました。

子供の虐待で生じる乖離とフラッシュバック、愛着障害について理解を深めることができました。それに対する治療の現場の様子を知ることができたことは大変参考になりありがたく思いました。また、先生のお話が教育者に寄り添った言葉であったのもありがたかったです。素晴らしい人選で素晴らしいお話を聞くことができました。研修部の皆様ありがとうございました。

専門性に大変優れた先生による講演会で、とても勉強になりました。ありがとうございました。

発達障害、アスペルガー障害、自閉症などといった名称は、広く口にされてもその内容や違いは時代による捉え方が違い、その変遷などがよくわかった。知覚異常障害は自分にも家族にも該当することが少なくなく、ほとんどの人が適応障害に当てはまりそうだと感じた。我が子への精神的虐待は、嫌味を言う、不要を怒るなどかつてよくしていたことを思い出し、恐ろしく感じた。発達障害が増えているのは、認定基準の広がりすぎも影響しているせいか、認定されることで安定する人は良いが、自信喪失などの悪影響はないか不安に感じる。

虐待がかなり問題であることがよく分かりました。二次的な疾患に発展する前になんとかしたいです。

今の医療について話を聞くことができてためになった。虐待を受けている、または疑いのある子に接しているのに、脳のことや解離のことをほとんど知らずにいたので、学んだことを指導に生かしたい。

現在の通級児の中に、「発達凸凹」という診断を受けている児童がいます。講演を聴いて、「発達凸凹」という診断の疑問が解決しました。「自閉症スペクトラム障害」で大事なことは、社会適応できているかどうかという視点であるということを知ることができてよかったです。

虐待や愛着障害が脳機能に影響があることはわかっていましたが、器質的な影響があることは驚きでした。通級以外の場面で出会うことが多いですが、協力していこうとおもいます。

昨年度は、通常の学級の担任をしていたので、昨年、自分の学級にいた児童が、先生の紹介してくださった症状に当てはまるなと思いながらお聞きしました。今は、通級言語教室を担当していますが、発達障害に関する理解は、通常の学級の担任の先生にも必要だと思いました。ぜひ、浜松市の教員に向けてもまた、このような講演会をしていただけると有り難いなと思いました。貴重なお話をありがとうございました。

大変勉強になりました。子どものこころの問題、奥が深いです。

子ども虐待が脳を変え、第四の発達障害に分類されるという事実に衝撃をうけました。

子どもと関わる上で、発達障害と子ども虐待が複雑に絡み合うことへの理解を十分にしていける必要があると思いました。もっと詳しくお話をお聞きしたいと思いました。

虐待、トラウマが、子の成長に大きな影響を与えると知り怖くなった。

幼少期の人的環境の大切さを知り、親になる覚悟を持ってほしいと思った。

ケアをする人材や財源の少なさに課題を感じた。

幼少期の虐待が与える人的影響の大きさを改めて思い知らされた。

発見したり防いだりする手段が必要。

防ぐ一翼を担えるように勉強していきたい。

脳や精神面のダメージを回復できるような医療的なアプローチも研究できるといい。

通級指導教室では、通級している児童の現時点での困り感への対応だけでなく、児童が将来社会適応できるように、先を見据えて指導していく必要があると思いました。

また、虐待で脳が変化するのは恐ろしいと思いました。虐待の連鎖を止めるにはどうしたらいいのか社会全体で早急に考えていかないとならないと思いました。

天竜病院がどこにあるのかは知っていましたが、誰にどんなことをしている場所なのかは失礼ながら今回初めて知りました。特に、児童虐待のお話は、今回初めて聞き、その影響が脳全体に及ぶことを知って衝撃を受けました。ちまたでニュースになる事件も加害者の幼い頃をさかのぼれば、もしかしたら「虐待」が見え隠れするものもあるのではないのでしょうか。このお話は、もっといろんな人が知っておくべきだと思いました。

市内にも成人の精神科は多くあるが、児童精神科と銘打っている所は聞かない。児童のさまざまな心に向き合う私たちにとって、連携できれば大きな力になっていただけると感じた。

PARS-TR という指標を紹介していただき、ぜひ見てみたいと感じた。「自閉っぽいね」ではない説得力があり、今後の支援も組み立てやすそうである。教室でも入手できないか検討してみようと思う。

本校には虐待によって毎日トラブルや暴力が絶えない児童がいます。そんなこの顔が講演を聞きながら頭の中を駆け巡っていました。なぜそうなるのか？脳の生理的変化など詳しい説明が大変参考になりましたが、具体的治療事例をもっと聞きたかったです。

発達に心配を抱える子どもが年々増え、医療受診の必要を感じてもなかなか受診が進まないことに疑問を感じていましたが、先生の話から日本における児童精神科医の実情が分かりました。ことばの教室の相談業務をしていて、行き場がなかったり、必要な支援が受けられない子が多かったです。療育や支援のできる場がもっと増えることを期待したいです。

・「解離」という用語とその状態を初めて知りました。反応性愛着障害と注意欠陥多動性障害を比較したページはとても興味深かったです。虐待と発達障害の見分けのつけにくさやそれらが複雑に絡み合うという内容は、強く印象に残った。

大変な問題を抱える子どもたちに日々向き合っておられる先生に敬意を表します。このような病院、対応できるスタッフが増えることを願っております。

たくさん出てくる専門用語に苦勞しながらも、先生のお話にもっと詳しくお話が聞けたらと思いました。子供たちの理解のためにもっと知りたいと思いました。

発達障害や愛着障害について医学的な立場からお話していただき、とても勉強になりました。反応性愛着障害と注意欠陥多動性障害の比較がとても興味深かったです。子供虐待やいじめなど慢性的なストレスが子供に与える

影響はとても大きいことがよくわかりました。ありがとうございました。

自閉症の症状や検査について、虐待を受けた子供の脳への影響についてわかりやすく説明してくださり、よかったです。今後もそのような子供たちが増えていくと思われる。学校でも気になる子がいたら、適切な対応を考えていきたい。

ことばの教室の指導を進める中で、発達の障害があることで、スムーズに指導が進められない通級園児がいたので、今回、発達障害の背景や特性について学ぶことができてよかったです。

ことばの発達の支援だけでなく、お子さんの抱えている背景にも目を向けて支援や指導方法を考慮する必要性が求められてきていることを、改めて感じました。また、自閉症の診断基準が変わってきていることを知ることができてよかったです。

解離にインチュニブが効くのは初めて知った。現場に降りてきていない情報だった。

医療にせっかく行ってもすぐに診てもらえないのは、医者不足だということが分かった。そのため、必要な時にすぐに支援を受けられず、また根気よく通院できない現状がある。なんとかならないものか。

子供の治療も大切だけれど、親への指導も大切なのが分かった。

ご講演ありがとうございました。

児童虐待と発達障害の関係性の深さについて、改めて実感しました。

また、脳にまで影響を受けるということを知り、それだけ重い傷を残すということを感じました。親だけが抱え込まないように、多くの手でサポートしていくことの大切さを感じました。

山村先生、貴重なお話をありがとうございました。発達障害と児童虐待のニュースは、普段の生活で耳にすることが本当に多くなりました。かわいい対象であるはずの赤ちゃん、幼児がいわゆる「かわいくない」ことをしてしまうときに、親も子も関わる周りの大人も苦しい状況が生じてくるのだろうと感じました。発達障害そのものよりも情緒的なこじれ（虐待やいじめ）による問題がさらに問題を大きくさせてしまうというお話を聞く中で、私達大人は何ができるだろうかと考えました。虐待はいけないということを教員は知っています。しかし知らず知らずのうちに子供を追い込んでいる、ということは残念ながら少なくないのではないかもしれません。みんなと同じことができない子どもたちは、傷つけられることが圧倒的に多くなります。関わる大人が子供を追い詰めないために、まずは発達障害への正しい理解が欠かせないと強く感じました。全教員が発達障害についての知識をもち、その子理解を深め、そしてその子どもたちに優しい目をもてる学校づくり、社会づくりをすすめていく必要があると改めて感じました。

また、「子育てで一番大切なこと」も拝読中です。大人の都合で子育てをするのではなく、子どもに振り回される時期が大切だと知ることができて少し自分の子育ても肯定してもらったように思えてほっとしました。発達障害は見てわかるものではないが故に、躰ができていないと見られる親の辛さも葛藤もあります。私は通級担当として、苦しい思いをされている保護者の方に、話をしてもらい、ほっとさせられる言葉がけができればなと思っております。また、それができるように、発達障害・愛着形成についてさらに学んでいきたいと考えています。どうもありがとうございました。

大変勉強になりました。

一言に発達障害と言っても、最近は多様な問題が多いと改めて感じました。

現場でそういった問題に向き合うためにも、多くの知識や事例を学んでいきたいと思いました。

貴重なお話をまた伺えると嬉しいです。

お忙しい中、ありがとうございました。

発達障害・虐待などの増加実態、とても具体的なお話でびっくりすることも多かったです。気になる偉人達・天才は発達障害？

少子化なのに、発達障害や虐待が増えていることや虐待の影響は脳全体に及ぶことなどとても印象に残りました。

発達障害は虐待のリスクが高まると思うので、より良く育てることは大切だと感じました。

第四の発達障害といわれる虐待が子どもに及ぼす影響の大きさを知り、驚きと切なさを感じました。愛着が子どもの育ちには何よりも大切であると思いました。発達障害と同じ表れが見られるので、どのように理解して関わっていいのか難しいと思いました。

発達障害について理解することの難しさをととても感じました。それと同時に理解することの大切さも感じ、医師の方から見た詳しいお話が聞けたのはとてもありがたい時間だったと思いました。いろいろな角度から子どもを正しく見る力を持てるようになりたいと改めて思いました。ありがとうございました。

私は2年前まで発達支援学級の担任をしていました。先生のご講演を聞いて、その時に出会った気になる児童の様子とご講演の内容が一致していました。子供が発達遅滞や多動などで育てにくいことや親自身も何らかの理由で子供とのかかわり方が難しいことから、幼児期からスマホやゲーム機で長時間遊び、児童期もさらに長時間ゲームをして過ごしている子供がいました。表れとしては、昼夜が逆転したり睡眠不足になったりして、学校でぼーっとしてしまう。切れやすく手が出てしまう。学習に身が入らず勉強を嫌がる。・・・このようなことはゲームの弊害と思っていましたが、そもそも適切な育児の対応を乳幼児期から受けていないことは幼児にとっては虐待に値し、そのせいで脳や身体機能、心の正常な成長を妨げられてきていることが先生のご講演を聞いてわかりました。わかりやすく勉強を教えるだけでは子供の健やかな成長を促すことや学力をつけることにつながらないと感じていました。このような児童に対して有効な手立てを知りたいと思いました。

愛着障害について、知ることができました。虐待の連鎖を防ぐために、教育現場で何ができるのか、考えさせられました。

子どもの虐待についてのお話は、とても興味深いものでした。慢性のトラウマが脳を変えてしまうというお話は驚きでした。ことばの教室に来室する子の中にも暴言を受けていて、言葉に影響のある子や愛着の問題で落ち着きのなさが表れているなど、隠れた障害があると思います。そのような子を見極める目を持てるよう日々学んでいきたいと思います。

また、子どもの心の問題や少子化なのに発達障害が増えている現状を受けとめ、私たち大人がもっと考え、よりよい社会になるように取り組んでいかなければならないと思いました。

発達障害に加えて、愛着障害（虐待）についても医療の視点から専門的、具体的なお話を伺うことができ大変よかったです。障害の状態や対応について日々目の前の子どもを通して悩み考えているが、医学的な見方考え方の現在の情報をいただき、再度自分の障害理解を見つめ直すことができました。

虐待についても、自分が接している子供達の背景要因になっている場合もあります。そのことを念頭に置き、その子にどんなサポート、対応が必要なのかを丁寧に見ていく必要があると感じました。

発達障害を抱える子供とともに、虐待等の不適切な養育により脳の発達に影響を及ぼされている子供が10%を超える割合で存在していること、それぞれの特性がある中でいろいろな不適応を起こしてしまう子供も多くなっていること、その行動には思いや背景があることなど、大変勉強になりました。医療の立場からの専門的で具体的なお話は大変貴重でした。改めて子供の見方、理解の仕方を見つめ直すいい機会となりました。指導している子供たちの行動の思いや背景にあるものを考えて、今後支援していきたいと思います。

「増え続ける発達障害児」について、現代の大人たちの問題が子供たちに大きな影響を与えていることを改めて感じた。法改正やどこまで介入するかなど問題はあと思うが、今自分にできることとして何ができるのかを考えていきたい。目の前にいる現在指導している子供が何に困っているのかをまずは把握したい。

子供虐待が与える子供への発達の影響が、社会にも、反社会的行動等の表れで、影響があることを分かりやすく教えていただきました。発達障害の子供が増え、原因も複雑化する中、その対応についても真剣に考えていかなければなりません。社会の制度を整えることももちろんですが、私自身も子供の現在の困り感だけでなく、その環境にも視野を広げて、真摯に対応をしていきたいと思いました。

以前通級での指導の効果があがらないときは、虐待を疑えというお話があり、実際にいくつかの事例を体験しました。それらのことについて科学的な知見から説明をしていただき納得することが多かったです。また、最近の体罰の指導でも感じますが、体罰を受けて育った世代が、自分の生き方を肯定したくてそれを下の世代に押しつけている例が多くあります。その場合、親や指導者にその方の生き方やがんばってきたことを肯定しつつも時代は変わったということをお話する必要があります。虐待の影響は脳の変形まで及ぼすということをもっと多くの人に知っていただきとと思いました。参考になるお話ありがとうございました。

特に虐待に関するお話は衝撃的でした。脳自体に変化をもたらすほどに強烈なインパクトを与えることは、怖くも感じました。これからの社会を支えていく世代にもこのことは周知されていくべきだと思いましたし、我々も最新の情報を得て学んでいく必要があると感じました。

少子化でも発達に悩みを抱える子ども達が、なぜ年々増加しているのか疑問でした。また、その悩みが複雑かつ深刻であり、目の前の子どもに何をしたらいいのか、途方に暮れることがしばしばでした。

ご講演を伺い、医療の立場からの専門的で具体的なお話は、大変貴重でした。子どもに対する見方、理解の仕方を見つめ直す好機となりました。子どもの発言や行動の思いや背景にあるもの、環境を考えて、指導していきたいと存じます。

参考になりました。担当している子どもたちの姿を振り返り、指導の手立てをイメージすることができました。新しい情報も得られたのでとてもよかったです。

ASDの診断について、「特性をもっている人」が、社会生活の中で適応に困難さが生じている状態だということを改めて教えてもらいました。また、虐待・トラウマ経験が「第4の発達障害」といわれることについては、先生のおっしゃる通りの子どもたちが少なくありません。虐待が引き起こす子どものこころへの大きな問題について、もっとお話を伺いたいと感じました。「解離」の状態についても、子どもが自信を守る術なのだという話を聞き、教育現場にいる者として、胸が苦しくなりました。

虐待児童の実態と天竜病院の取り組みがよくわかりました。虐待の連鎖顔わいなと思いました。虐待されたことで脳に変化が起きるのなら早期発見が大切なことがわかりました。

自分の担当している生徒の中に、幼少期より、家族から暴言・暴力を受けてきた生徒がおり、発達の特性も絡み、複雑な表れをしています。講演の中に、発達障害、虐待、愛着障害、解離とフラッシュバックなどのお話があり、いろいろな項目で当てはまることがありました。複雑に絡み合った生徒であること、丁寧な支援が必要であることを改めて感じました。伺ったお話をもとに、それぞれの要素については自分なりに学びを深めていきたいと思っています。

福祉経済学の立ち遅れについて少し触れられていましたが、福祉的な支援の部分に関連して、性教育（望まない妊娠等からつながる虐待など）の遅れも気になっています。福祉などの改革について一教員ができることはないと思いますが、教育場でできることは何か、子どもが安心・幸せな生活ができるように小さな取り組みを考えて実行していきたいと思っています。

通級に配属になって、新しい単語や初めて聞く言葉が増えて「よくわからないなあ」という思いを持っていたが、用語の意味を含めて説明して下さったので、内容が入りやすかったです。

貴重なお話ありがとうございました。慢性のトラウマが器質的な変化を引き起こし、その影響は脳全体に及ぶというお話に衝撃を受けました。発達障害児は育てにくさから虐待に発展するリスクは高いでしょうしさらに生きづらくなってしまうのではと思います。また発達の特性から情報を十分に受け取れずに愛着形成が定型発達児よりも困難な場合もあるのではないのでしょうか。どのような支援ができるか日々模索中です。

虐待については分からない部分が多く、今回話を聞いてとても勉強になりました。DVを受けると神経線維が減り痛みを伝えないようにする、DVを目撃すると視覚野が減る等、虐待を受けると自分を守るために脳が変化し機能的な変化が起きるということには驚きました。幼児言語教室でも第4の発達障害として気づけるように、子どもの様子をより注意深く見ていかなければならないと思いました。

被虐待によって、ここまで発達に支障をきたすことについて、具体的な例を教えていただいてよく分かりました。様々な背景をもったお子さんがいるので通級指導教室として、診断名を含めて、講演でうかがった事例も視野にいれながら、適切な指導を考えていきたいと思います。

薬のことなど医療的なお話も聞けてとても勉強になりました。ありがとうございました。

今まで発達障害について学ぶことは多かったですのですが、子供への虐待が「第4の発達障害」と考えられていることや、虐待が子供に及ぼす影響の強さに驚きました。また、子供虐待に対して、ニュース等では取り上げられるものの（最近ではドラマでも取り上げられました）、対策についてはまだまだ発展途上であるということを感じました。

通級している兄の暴言で、弟が萎縮しているという様子が見られるので、山村先生の講演にあった虐待されている子の事例に当たるのでは、と思ったので、とても参考になりました。

子ども虐待の実態、指導のむずかしさが印象的でした。医療や教育の対応で何とかなるものではないことが怖く感じました。でも、苦しんでいる子供は年々増えているのだから、できることから対応していかなくてはと思いました。

子どものこころの問題は、より深刻化してきていると思います。多様化する子どもの表れに対応できるよう、研修を深めたいと思いました。

自閉症スペクトラム障害のうち、社会に適応できる程度であれば障害とみなさず、発達の凸凹ととらえることが分かりました。凸凹をもった子たちが虐待などにより重い障害へと進んでしまわないようにすることの大切さを感じました。

的確に見立てをし、適切な支援が受けられれば社会適応が進み、障害ではなくなるというお話が心に残りました。

判断が難しく、改めて発達検査は専門家に任せたいと思いました。虐待の急増でシステムが追い付けない現状を知り、対応施設を増やしていけるよう訴えていく必要性を感じました。「税金を払える子にする」ととても大切なことで、子供一人ひとりに自信をもたせ、社会に出していく責任があることを改めて感じました。

牧之原市では現在、発達とことばが分かれています。しかし、中には今日お話の中に取り上げられたように特徴をもった子供も来ることがあるので、大変勉強になりました。

「確定診断の重要性」「薬物の有効性で反応性愛着障害と注意欠如多動症の違いを見る」「メタ認知（深呼吸や足踏みなど）が解離に有効」など医療面からのアプローチは、専門の先生ならではの話であり、とても勉強になりました。

目に見えない心の問題だけに受け入れる側の配慮が難しいけれど大切だと感じた。

「タックスペイヤーになるように」という医療の現場から虐待や発達障害を社会的コストで見た知見がとても説得力があり、納得しました（が、教育の現場からこれを言うと逆風が吹きそうです）。また、「解離」という話を聞いて、かつて担任した幾人かの子供の顔が思い浮かび、（あの時は分からなかったが、あれはきっと解離だったんだ。）と考えました。その時の自分の対応は誤っていたと、反省しました。「愛着障害」という言葉をここ1～2年で多く聞くようになり、その特性を知って思い起こすとやはり何人かの子供の顔が思い浮かびます。教育の現場にいると多くの子供たちに出会いますが、それと同じくらい色々な親御さんとも出会います。今回の話にあったような虐待はないことが望ましいですが、自分も子育てをしている中でこみあげてくる怒りを感じることがあり、子供に発達の特性があったり、本当にどうしようもないときには衝動的にその怒りが面に出てしまうこともないわけではないだろう、と感じることがあります。みんなが完全ではないけれども、共に学び、支え合い、よりよい成長ができる環境づくりを、自分の今の立ち位置で、ちょっとずつでも家庭や自分の関われる社会で貢献していこうと思いました。

子どもの問題行動の背景には、愛着障害なのか、発達障害なのか、何があるのだろう、と悩むことがよくありますが、愛着障害、発達障害ともに詳しくお話が聞けて大変勉強になりました。また、おすすめの書籍などの情報提供を頂けたこと、ありがたいです。PARS-TR も実際に見てみたいと思います。

被虐待児とそのケアの現状について、非常にショックで、重い気持ちになりましたが、まず「知る」ことができて良かったです。ありがとうございました。

カテゴリー診断とスペクトラム診断の違いがわかりました。障害を持っていても社会に適応できていれば良いので、通級という立場でその手助けをしたいと思いました。また、虐待による障害の重さに衝撃を受けました。日々、奮闘されている山村先生に頭が下がります。とてもわかりやすく有意義な内容だったので、また続きのお話を拝聴したいと思いました。

発達障害と虐待に関係性があることを認識できた。現職に就く前にも学校に関わる仕事の中で虐待が絡む事例に触れる機会があったが、それは子ども自身や保護者が何らかの障害を抱えている場合が多かったと思い出された。幼児言語教室指導員として、社会全体でこどもと、こどもを取り巻く人々が生きやすい世の中になるよう、幼児期からサポートしていきたいと思った。

発達障害の新たな分類「第4群」、印象に残った。発達障害には虐待が少なからず関連してくると今まで思っていたが、愛着障害だけでなく脳に影響が出てくることを聞き、改めて虐待における発達障害の重みを痛感した。日々の生活の中で虐待に関するニュース等を耳にし、無名が締め付けられることが多々ある。今何ができるのか日々考えながら、子どもたちや保護者に向き合いたい。

アセスメントやその後指導を重ねる中で、この子の表れは「性格によるもの」なのか、「発達特性」なのか、「虐待などの人的、生活環境等後天的な要因によるもの」なのか、そのどれもが複雑に絡み合っているものなのか、難しいことが増えてきていると感じる。

前頭前野に萎縮がみられるようになるのだと、以前別の研修でも学び、恐ろしく感じ、幼児期に向き合う私たちは家族にその兆候が見られるようなら然るべき機関と連携すべきと考える。

とにかく傾聴し、保護者の安心できる空間を作りたいと考えている。

愛着障害の問題だけでなく、発達障害全般についても分かりやすく説明をしてくださったので理解が深まりました。

虐待で脳そのものが変質してしまうという話はとてもショッキングでした。防衛本能で、聞かない、見ないという脳になり、解離が起こるなど聞いていて切なくなりました。

通級担当者だけでなく、多くの先生方、特に特別支援学級の先生方に聞いていただきたい話だと思いました。そして、保護者の方にも聞いてほしい話だと思いました。

発達障害の子供たちの困り感について、より深く理解することができました。また虐待を受けることで起こる第四の発達障害について知ることができました。子供時代の親の関わりの重大さも感じました。

虐待体験をした子の脳の画像が、健康な子どもと比べてあまりに違うことに驚いた。脳の血流が減って働きが落ちてしまうことを思うと、早い段階で気づいてあげられるように、子どもたちの様子をしっかりと見ていきたいと感じた。

心の問題、愛着障害をもつ子のきめ細やかな対応が大切だと感じた。難しい問題だが、不登校の子が多いと感じる今、専門機関が連携を取り合っていくことは、とても重要で必要なことだと感じた。

浜松市は、医療・教育・福祉の連携がしっかり取れているので、子どものためにみんなで関わることができてす

ばらしいと感じた。そういう機関が虐待児の心のケアにつながるので、知ることができてよかった。

いじめや虐待が脳の器質的变化を引き起こし、発達障害的現れがあり、それが虐待につながり、連鎖していくことの恐ろしさを知った。

今、目の前で起きている行動の背景に何があるのか。不安やイライラの原因は、本人だけの問題と捉えるのではなく、大きく家族全体や生活そのものから読み取っていく大切さを学びました。ありがとうございました。

ADHD など発達障害だけでなく、虐待や愛着障害などの勉強の必要性を感じました。これからもこのような講演を聴ける機会があるといいです。ありがとうございました。

今までかかわってきて対応に苦慮した子どもたち数人のあわれを思い浮かべながら聞かせていただきました。周囲のかかわりが子どもに与える影響の大きさを改めて痛感しました。

脳の発達と虐待についての関係がよくわかり勉強になりました。

通級担当者だけで享受するにはもったいない内容だった。全職員で聞きたかった。発達障害の深い理解につながった。虐待の問題は、もはや遠くの世界の問題ではないので、共通して理解を深めていきたいと思った。ありがとうございました。

解離のことについて詳しく教えていただきました。深呼吸をしたり、その場で足踏みさせたりして、現実の世界に戻ることができることを初めて知りました。その子が辛いと感じているから解離しているという実態もわかりました。

体罰、虐待等を受けると脳の機能が変わることが分かりました。不適応が発達障害によるものなのか、愛着がきっかけとなっているのかを丁寧に見取り、対応していきたいと思いました。

分かりやすく、内容もとても充実した講演でした。色々考えさせられると共に、今後を活かしたいと強くおもいました。ありがとうございました。